

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

- | | |
|------|-----|
| ① 国語 | 36人 |
| ② 算数 | 36人 |
| ③ 理科 | 36人 |

5 留意事項

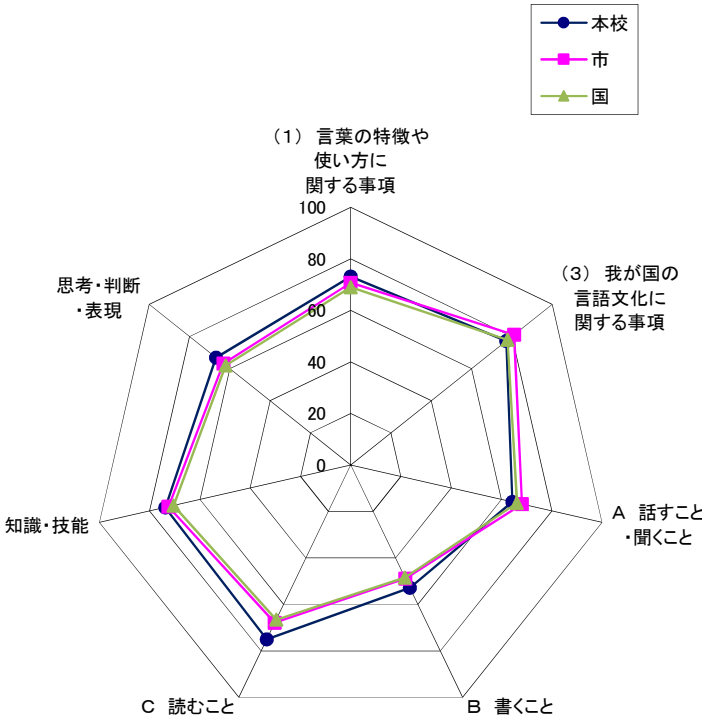
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	73.1	70.7	69.0
	(2) 情報の扱い方に関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	77.1	81.1	77.9
	A 話すこと・聞くこと	64.3	68.2	66.2
	B 書くこと	52.9	48.9	48.5
	C 読むこと	75.0	67.9	66.6
観点	知識・技能	73.8	72.5	70.5
	思考・判断・表現	66.8	63.2	62.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

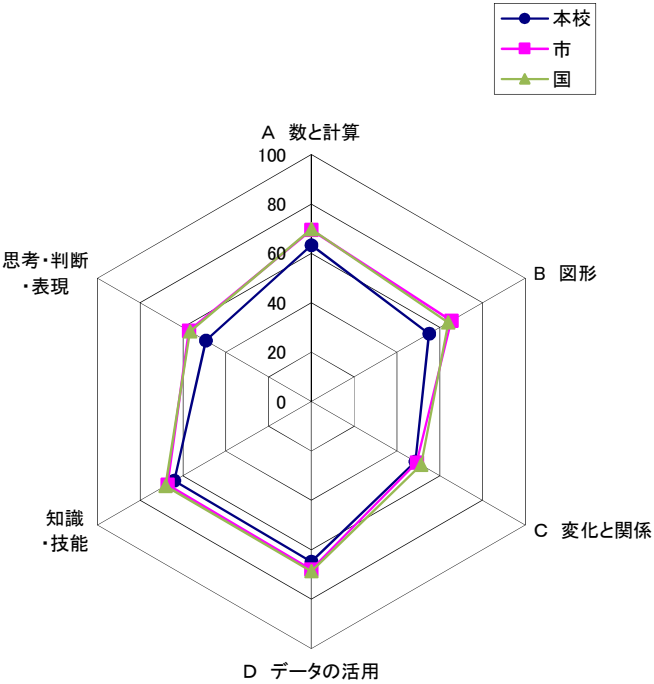
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は73.1%であり、全国平均を4.1ポイント上回っている。 ○漢字を正しく書く設問では、いずれも全国平均を上回っている。 ●話し言葉と書き言葉の違いを理解する設問において、平均正答率は77.1%であり、全国平均を8.4ポイント下回っている。	今後も、漢字学習の充実を図っていく。単なる一行練習などの繰り返し練習だけでなく、覚えていない漢字を洗い出し、その漢字を練習したり、様々な熟語を練習して、文章の中で適切に使えるような力を養っていったりするなど、漢字学習の方法も含めて児童に指導していく。 また、「話す・聞く」学習の際に「書く」学習も取り入れ、話し言葉と書き言葉の違いについての理解の促進を図っていきたい。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は77.1%であり、全国平均と同程度である。 ●漢字や仮名の配列において、「行の中心に気を付ける」ことに注意して書く設問において、正答率は77.1%であり、全国平均と同程度である。	書写の学習において、ただ丁寧に書き写すことを目的にするのではなく、何を意識して書くことが美しい文字につながるのかを重点的に指導していく必要がある。そこで、「文字の大きさ」「行の中心」「漢字と仮名の大きさ」など、汎用的に使える知識を獲得していけるような授業を推進していく。また、その力を使って実際に書くことで技能の向上も図っていく。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は64.3%であり、全国平均を1.9ポイント下回っている。 ●必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える設問において、平均正答率が80.0%であり、全国平均を4.7ポイント下回っている。	話す・聞くの学習において、話したり、聞いたりする必然性のある課題を提示することにより、意欲的に学習に取り組めるようにする。 また、①話す(発表する)ことと、②話し合うことと、③聞くことの学習のバランスを考えながら授業を構成していく。その際、話す・聞く学習だけでなく、「書く」「読む」学習とも連動させながら、児童にとって意味のある学習につなげていきたい。
B 書くこと	平均正答率は52.9%であり、全国平均を4.4ポイント上回っている。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、分や文章を整える設問において、平均正答率が65.7%であり、全国平均を6.5ポイント上回っている。	文章を書く指導をする際、文章の長さや書き方、書く際の文章の構成など、条件を設定した中で書くように指導していく。そのことにより、児童の「書く力」を伸ばしていきたい。 また、児童が書いた文章を互いに読み合う時間を設定する。その際、互いの文章のよいところに着目して読んでいけるように、どんな文章がよい文章なのか、観点を子供たちと共有しながら学習を進めていく。
C 読むこと	平均正答率は75.0%であり、全国平均を8.4ポイント上回っている。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像する設問や、表現の効果を考える設問において、平均正答率がいずれも全国平均を10ポイント以上上回っている。 ●登場人物の相互関係について、描写を基に捉える設問において、平均正答率が65.7%であり、全国平均を4.9ポイント下回っている。	人物像や物語の全体像を想像する設問や表現の効果を考えるでは、平均正答率が全国平均を大きく上回っていることから、物語文を読む力は身に付きつつあると考えられる。今後は、自分の解釈したことを発表したりノートに書いたりする際に、「主張・根拠・理由」の3点セットで発表したり書いたりするように意識して指導していく。特にどの叙述を「根拠」にして考えたのかを意識させるとともに、自分の主張と根拠をつなぐ「理由」についても考えさせることで言葉による見方・考え方を養っていききたい。

宇都宮市立東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	63.3	69.5	69.8
	B 図形	55.0	65.4	64.0
	C 測定			
	C 変化と関係	48.6	49.3	51.3
	D データの活用	64.8	68.0	68.7
観点	知識・技能	64.1	67.3	68.2
	思考・判断・表現	49.4	57.3	56.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

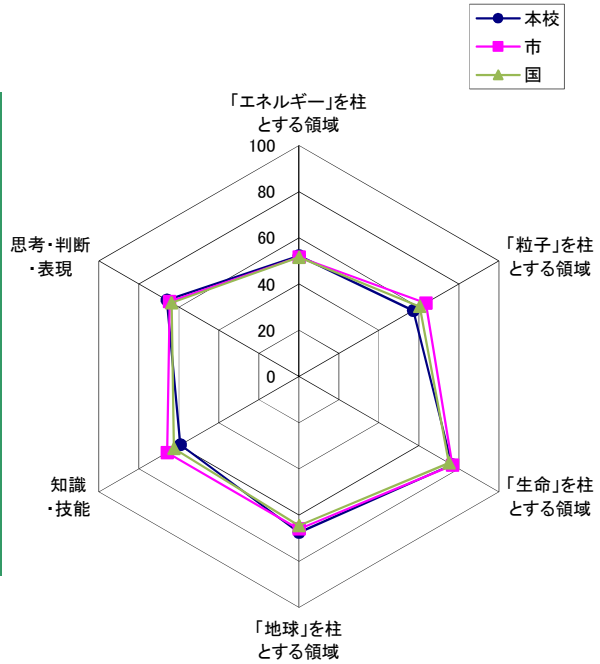
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、63.3%であり、全国平均を6.5ポイント下回っている。 ○二つの数の最小公倍数を求める設問では、全国平均を2.1ポイント上回っている。 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察する問題では、全国平均を14.8ポイント下回った。	・示された場面を解釈し、目的に合った方法を設定したり、なぜそれがふさわしいのか話し合う場面を設定し、筋道を立てて考え説明をする力を育てていくようにする。
B 図形	平均正答率は55.0%であり、全国平均を9.0ポイント下回っている。 ●図形の問題は4問とも全国平均を下回っている。特に、『示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題』では、全国平均を14.7ポイント下回っている。	・問題を解くための根拠となる図形の性質を判断することに課題があると考えられる。もう一度、それぞれの図形を構成する要素に着目し、それぞれの図形の定義を確認しながら、作図の手順を確認していく。
C 変化と関係	平均正答率は48.6%であり、全国平均を2.7ポイント下回っている。割合の問題における正答率が低い。 ○「果汁が40%含まれている飲み物の量が1000mlのときの果汁の量を書く」問題では、全国平均を9.7ポイント上回っている。 ●「果汁が含まれている飲み物の量を半分にした時の果汁の割合について正しいものを選ぶ」問題では、全国平均を15.7ポイント下回る5.7%の正答率であった。	・割合を用いた問題解決に課題があると考えられる。日常の具体的な場面に対応させたり、数直線や図式を用いて基準量と比較量の関係を表したりして理解を深めていく。
D データの活用	平均正答率は64.8%であり、全国平均を3.9ポイント下回っている。 ○分類整理されたデータから、全員の希望が一つは通るように、遊びを選ぶ問題では、全国平均を1.8ポイント上回っている。 ●表の空欄に当てはまる数を求める式と答えを書く問題では、全国平均を9.6ポイント下回っている。	・表の空欄に当てはまる数を求める式と答えを書く問題は計算問題であるため、ミスをしないように普通の授業から問題文をよく読み計算の確かめを行っていくようにする。

宇都宮市立東小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	52.2	51.7	51.6
	「粒子」を柱とする領域	57.1	63.5	60.4
	「生命」を柱とする領域	76.5	76.8	75.0
	「地球」を柱とする領域	67.6	66.1	64.6
観点	知識・技能	59.3	65.9	62.5
	思考・判断・表現	66.0	64.6	63.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、52.2%であり、全国平均と同程度である。 ○「鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く」問題に対するまとめから、その根拠を実験の結果を基に書くについては、いずれも全国平均を10ポイント程度上回っている。 ●日光が直進することや実験の過程や得られた結果を適切に記録することでは、全国平均を7ポイント程度上回っている。	・記述式や短答式の問題では、全国の平均よりも上回っているが、解答を選択する問題での正答率が全国平均を下回っていることから、取り組んだ実験や考察などを、日常生活の中での体験的なことと結び付けながら学習を進め、生活に関わる自然現象であることを深く理解させていくことにより、知識や技能の更なる定着を図っていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、57.1%であり、全国の平均を3.3ポイント下回っている。 ○「水50mLをはかり取る際に、メスシリンダーに入れた水の量を正しく読み取り、さらにスポイトで加える水の量を選ぶ」「凍った水溶液について、試してみたいことを基に、見いだされた問題を書く」については、全国平均を5ポイント程度上回っている。 ●「一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く」では、全国平均を14.9ポイント下回った。また、「鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変わしたものかを書く」では、9.1ポイント下回っている。	・コロナ禍で、学習形態に制限がある中で、大変厳しい状況ではあるが、実験技能等の習得を図るため、できる範囲で児童一人一人が実験に関われるよう教材教具の準備を行っている。 ・知識の習得を確実にするため、実験方法についての説明や結果の考察を言葉で表現できるよう、ICTを積極的に活用し、図や映像を通して児童が視覚的にも理解し、要点をしっかりと抑えたまとめができるよう指導していく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、76.5%で全国の平均76.1%とほぼ同等であった。 ○「昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であるかどうかを説明するための視点を選ぶ」ことでは、12.2ポイント、「自分の観察記録と新たに追加された他者の観察記録を基に、問題に対するまとめを見直して書く」でも11.9ポイント全国平均を上回った。 ●「育ち方と主な食べ物の二次元の表から気付いたことを基に昆虫の食べ物に関する問題を見出す」では、全国平均を6.7ポイント下回った。	・自然現象や生命に関することについて、学習とのつながりを意識した話題を提供し、興味・関心を高めていくとともに、生活経験や知識の個人差を解消していく。また、ICTを活用し、実際に見られないような昆虫の完全変態や不完全変態の様子を視覚的にとらえられるよう、視聴覚教材を充実させていく。 ・観察のまとめでは、キーワードなどを全体で確認し、要点をしっかりと押さえた考察ができるよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、67.6%であり、全国平均を3ポイント上回っている。 ○「結果からいえることは、支持された結果のどこを分析したものなのかを選ぶ」では、13.3ポイント、「鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に、継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く」では、10.5ポイント全国の平均を上回った。 ●「鉄棒に付着していた水滴と氷の粒は、何が変わしたものかを書く」では、全国の平均を9.1ポイント下回った。	・観察で得た結果を分析・解釈して、自分の考えを持つことはできているので、そこから起こりうる事象を考え、その先のことを予想して学習ができるよう、問題解決するまでの道筋を構想する支援をしていく。予想が確かめられた場合は、観察カードを使用して、結果をまとめるなどの指導をしていく。

宇都宮市立東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの
○「家で自分で計画を立てて勉強していますか」では、肯定割合が88.9%で全国平均を17.8ポイント上回っている。「計画→テスト→分析→練習→復習」のやり方で、毎日の自主学習で取り組んでいることがこの結果につながったと考えられる。	
○「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」では、肯定割合は100%で、全国の平均を5.6ポイント上回っている。普段からタブレットを使って学習を行っていることから、この結果につながったと考えられる。	
○「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」では、肯定割合は88.9%で、全国平均を10.6ポイント上回っている。学習に対する意欲が高く、課題に対して粘り強く取り組もうとする児童が多いことが伺える。	
○「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」では、肯定割合は91.7%で、全国平均を11.6ポイント上回っている。学級全体の雰囲気や友達との信頼関係が良好であることが伺え、学習の中でのコミュニケーションでも生かされていることが分かる。	
○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」では、肯定割合は97.2%で、全国平均を13.7ポイント上回っている。学級会の時間を十分に取し、学級全体において、よりよい生活をしていこうとする雰囲気が見られる。	
●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」では、肯定割合は69.5%で、全国平均を12.0ポイント下回っている。また、「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」でも、肯定割合が4.3ポイント下回っている。6年生ということもあ、り子供に任せているところもあるかと思うが、規則正しい生活を送るために、就寝時刻や起床時刻をもう一度家庭で話し合う時間を設ける必要があると考える。	
●「読書は好きですか」の肯定割合は、69.4%で全国平均を3.7ポイント下回っている。また、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間読書しますか」でも、全くしないと答えた児童の割合が、33.3%で全国平均を7.0ポイント下回っている。PCやタブレットの普及から読書する機会が減ってしまっているが、朝の学習や休み時間に読書する時間を設定したり、図書室利用の声掛けを積極的に行うなどしていく。また、家庭と連携して休みの日の読書を推進していきたい。	
●「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の肯定割合は、41.7%で全国平均を11.0ポイント下回っている。また、「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事の先生は除く）」では、『当てはまらない』と回答した児童の割合が63.9%で、全国平均を22.3%上回っている。総合的な学習の時間で地域の行事を調べるなどして地元愛を育てたり、登下校の学校見守り隊の方々とかかわりの機会をつくったりしていきたい。	

宇都宮市立東小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
①主体的に取り組む、共に学び、楽しく分かる授業づくり ②対話的で深い学びを通して思考・判断・表現力を伸ばす指導の工夫 ③基本的学習態度と基礎・基本の確実な定着	①ICT（一人一台端末）の活用や児童の問いを生かす工夫 ②児童の発言を広げ、つなげるなど協働的な学びのある授業の工夫 ③学業指導の充実とAI型学習ドリルの有効活用	・児童質問紙「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の設問について、肯定的な回答をした児童の割合は91.7%であり、全国平均を10ポイント以上上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・児童質問紙「学校で、学級の友達と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使っていますか」の設問では、「月一回以上」と回答した児童が38.9%であり、協働的な学びの際のICT機器の活用に課題が見られた。	・協働的な学びの場の設定の際、ICT機器の活用を意図的に仕組んでいく。	・児童が話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることはできているが、ICT機器の活用に課題があった。そこで、協働的な学びを推進する際、ペアワークやグループでの話し合いだけでなく、スクールタクトなどのICT機器を活用し、クラス全員の考えをスピーディに共有し、深い学びにつながるようにしていきたい。